



## 江戸時代の遺伝子

徳川宗家十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川恒孝つねたか



静岡市指定文化財「駿府鳥瞰図」土佐光成作。18世紀初頭。1707年噴火の宝永山を描写。家康公没後、駿府城天守は焼失し、駿府の人口は15万人から1万人に減少。原本所蔵：駿府博物館（公益財団法人 静岡新聞・静岡放送文化福祉事業団）

日本は昔から次々と外国の文明を輸入し吸収して使ってきた。古代日本は、当時世界最強の文明国であった中国からそっくり輸入して始まりました。多くの渡来人の助けを得て、都市の作り方、役所や役人の制度、律令（法律）の作り方、建築様式から文学や音楽など、すべてにわたって中国文明を取り入れることが文明開化そのものでした。

そして長い年月をかけて、その外国の文明を日本の実情と感性に合わせて変えていきます。仮名を作り出して、現在の仮名混じり文を作り出したことも素晴らしい知恵でした。中世は古代の中央王権の直轄政治が崩れ、多くの地方勢力が立ち、最終的に戦国時代で残っていた色々な権威を壊して、新しい中央集権的な日本を築く準備が進みました。

明治になると、今度は何もかも日本よりも遥かに先進的であると思われた西欧の文明を輸入し吸収することにわき目もふらずに邁進しました。

そして第二次大戦後は、基本的にアメリカの制度や文化をお手本として進んでいます。

その間であって、江戸時代はまったく日本人の知恵と経験、感性で作りに上げたもので、結果として日本の歴史の中で最も長く豊かで平和な社会を作り出したことになりました。この時代には、外国からの政治的な思想も新知識も、声高な理念も主義もありません。平和を維持する、国を豊かにして、人々が毎日幸せに暮らせる世を作るという社会全体の基本合意の下で、当たり前前のが当たり前に行われた時代でした。

時代というものは、テレビのチャ

ンネルを切り替えるように、パッと切り替わるものではありません。人々の持つている生活感覚や、社会の基盤となる道徳や価値といったものが切り替わるのには、約五十年の経過が必要だと思えます。つまり前の時代で二十歳まで教育を受けた人たちが七十歳くらいになって、まったく新しい社会の中で育った次の世代に場所を譲るまでの期間が必要です。

さらに制度の変化によって表面的に変わっていく社会のもうひとつ下の層には、百年ではなかなか変わらない文化・習慣の層があってもっと底の方には、何があっても変わらない民族の遺伝子のよいうなものがあるだろう、というのが私の感じます。

江戸時代の中に詰まっていた日本人の知恵と感性は、いまでも私たちの中にしっかりと残っています。